

山形東高

平成26年4月1日

第66号

【発行所】
〒990-8525 山形市鏡町1-5-87
山形東高同窓会事務局
TEL・FAX (023) 631-7501
【発行人】
今野 雅行
【印刷所】
坂部印刷 榎
TEL (023) 631-2056

平成25年度 山形東高同窓会
総会・表彰式・まつり



平成25年度同窓会まつり

互一会・天成会

本年度の同窓会まつりは、去る10月18日、金曜日の夕べ、ホテルメトロポリタン山形に600名を越える同窓の老若男女が集い盛大に開催されました。

総会は、物故会員60余名への黙祷が捧げられ、浜田敏同窓会会長が挨拶された後、決算、事業計画、予算に関する議事が滞りなく承認されました。また創立130周年行事についての経過報告が行われました。

表彰式では、永年勤続者として齋藤智昭先生、横山哲先生に感謝状が贈られ、同窓会功労者として鈴木寛氏ならびに真田宗厚氏が表彰されました。また、木村宰氏他、昭和31年卒六翠会63名の皆様が祝賀を受けられました。

6時30分より校歌斉唱の後、浜田同窓会長の挨拶では創立130周年事業についてのお礼が述べられた後、結城章夫山形大学学長および佐竹俊明校長から祝詞をいただきました。結城氏からは山形大の近年の歩みと展望を、佐竹先生よりは我が母校の活躍についてご報告をいただきました。

現役生徒の応援団と、チアリーダーによる若さあふれるエールに目を見張った後、日野顕正先生

の発声による乾杯となりました。祝宴では恩師をはじめ先輩後輩、同学年のなつかしい再会、交歓が行われ、広い満席の会場は大いに盛り上がりました。また、余興として「大曾根餅つき保存会」皆さんのパフォーマンスが行われ、目と耳と舌を大いに楽しませてくれました。

まだまだ、時間が足りない中、「おお勝利」の大合唱で締めくくり、吉田真一郎氏の万歳三唱でお開きとなりました。

今年度の当番幹事は互一会（東26回）と天成会（東48回）で、実行委員長は互一会の半田稔が務めました。まつり開催まで当番幹事一同は半年にわたり準備を重ねてきました。この間、55歳と33歳との交流も大変楽しいものでした。

開催案内やチケット販売、当日の進行など今野同窓会事務局長、各学年の幹事の方々ならびに関係の皆様には、ご指導ご協力いただき深く感謝申し上げます。

例年開かれているこの「まつり」が願わくは過去を振り返るだけでなく、今日の生きる糧となりますことを。

記 小嶋 長一



ごあいさつ —強いきずな—

校長 佐竹 俊明

昨年4月、第42代校長として赴任しました佐竹です。遅くなりましたが、よろしく願い申し上げます。

私は、平成元年から4年間本校に勤務させていただきましたが、その時は、本校を卒業して16年が過ぎ、校舎も新しくなっており、在校時とは別の学校という感じがしました。今回20年ぶりの勤務で感じたことは、校舎は同じですが生徒が変わったということでした。「質実剛健・文武両道・自学自習」の校是のもと、勉学や部活動に励んでいるのは以前と同じですが、社会参加あるいは社会貢献に関わる活動をこれまで以上に行っております。部活動や有志グループによる除雪ボランティア、老人ホーム訪問などに加えて、アフガニスタンの子どもたちへランドセルを贈る「えがお大作戦」は、一般市民の協力も得ながら生徒会全体として取り組んでおります。そうは言っても、現状のままでよいというわけではありません。大学進学状況や部活動の実績について、ご意見を頂戴することも多くありますので、教職員・生徒一同、さらなる努力を続けてまいります。

さて、私にとってこの1年は、本校と同窓会の強いきずなを感じた1年でした。私も同窓会まつりや体育部OB総会に加えて、これまでの勤務経験から県庁東高会や米沢支部総会にも出席して母校を応援してきたつもりですが、多くの地域・職域等の同窓会の会合に出席させていただき、母校や後輩への熱い想いを感じた1年でした。大阪で開催された関西山中山東同窓会では、元和歌山県教育長の小関先輩が、「朝からそわそわして、家を出る時には校歌を口ずさんでいる」と奥さんから言われたという話をお聞きし、名古屋での東海同窓会では、静岡在住の方が「あこがれの先輩に会えるので出席しました」と話しておられました。山形市役所東高会と尾花沢支部及び仙台同窓会には他の業務と重なり出席できませんでしたが、平成26年度は何としても出席して本校とのきずなをさらに強くしたいと思っております。

最後に、母校は創立130周年という節目の年を迎えますので、これまで以上のご支援・ご協力をお願い申し上げます。同窓生の皆様のご健勝とご活躍を祈念し、ごあいさつといたします。



ご挨拶

同窓会長 浜田 敏

皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、日頃より同窓会に対するご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。

母校は、明治17年に同山形県唯一の中学校として開校し、その後、山形一高、山形東高と名称を変え、本年10月29日創立130周年の記念の日を迎えます。母校は明治、大正、昭和、平成の4代にわたり文武両道、質実剛健、自学自習の校是のもと、28,000名に及ぶ有名な人材を各界に輩出し、山形県のみならず、我が国の発展に大きな貢献をしております。

これも優秀な歴代校長をはじめ、教職員の皆様のたゆまぬご努力、地域・本校卒業生等の関係各位のご尽力とご協力の賜物であり、衷心より感謝申し上げます。また、これまでの山形東高の隆盛は同窓会としましても、誠に喜ばしい限りであり、大変心強く、慶賀の至りであります。

同窓会ではご案内のとおり下記の5つの創立130周年記念事業を行います。皆様にはご理解とご協力、そしてご寄附をいただきましてお礼を申し上げます。

ただし、募金についてはいささか苦戦をしておりますので、学年の幹事さんを中心に引き続きよろしくお願ひしたいと存じます。

- 1 「東日本大震災と山形東高の生徒・同窓生の記録」の出版。
- 2 記念コンサートの開催。その時に上記の記録の発表会を行います。
- 3 山東歴史資料の整理、保存、展示。
- 4 西校門周辺の整備。
- 5 山東奨学会への寄附。

母校は永遠に胸から消えない青春の故郷です。母校創立130周年にあたり、校歌にある「来たるを続けて遠きにいたし」という精神の下、悠久の山形東高の歴史と伝統を未来につないでまいりたいと思っております。皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

結びに、母校の益々の隆昌そして皆様のご健勝、ご活躍を祈念致しまして、ご挨拶と致します。

平成25年度 松田杯等四賞

《松田杯》卓球部

男子

県高校総体 男子団体 第3位

女子

県高校総体 女子ダブルス (小野・寒河江組)
第3位 東北大会出場

東北卓球選手権大会

女子ダブルス (小野・寒河江組)
ベスト16

《鈴木杯》

寺澤裕希 (なぎなた)

平成25年度

県高校総体 演技 第2位
個人試合 第2位

東北高校総体 出場

全国高校総体 (インターハイ) 出場

《矢野牌》囲碁・将棋部

囲碁部門

第37回全国高等学校総合文化祭囲碁大会

団体戦出場 山形県大将 後藤哲之介

第37回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権大会

出場 後藤哲之介

第27回東北地区高等学校囲碁選手権大会
兼第37回全国高等学校選抜囲碁大会東北地区予選大会 出場
将棋部門

第35回山形県高校将棋選手権大会

団体男子 第2位、団体女子 優勝

第37回全国高等学校総合文化祭将棋大会

団体女子 第5位

第22回全国高等学校文化連盟将棋新人大会

個人女子 優勝 (全国大会出場) 松田 梢

《駒草杯》吉田実祝 (放送委員会)

NHK 杯県高校放送コンテスト

アナウンス部門 3位

東北高校アナウンス朗読コンテスト

アナウンス部門 入選

NHK 杯全国高校放送コンテスト

アナウンス部門 準々決勝出場 (奨励賞)

同窓会特別賞

《中村賞》

四釜 真子

《木村賞》

吉田 実祝

《山形東高同窓会賞》

海老原尚哉

《山形中学校東高等学校東京同窓会賞》

深瀬 真由

《山形東高仙台同窓会賞》

齋藤紘太郎

体育・文化活動総況

平成25年度の体育活動、文化活動における山東生の活躍ぶりを紹介いたします。

県高校総合体育大会では、フェンシング競技において、斎藤大志郎選手が男子エペで優勝、門脇璃子選手が女子サーブルで優勝、女子フルーレで第2位となり、インターハイ出場を決めました。また、なぎなた競技において、演技部門で寺澤裕希選手・寺澤裕夏選手が第2位、個人試合で寺澤裕希選手が第2位となり、インターハイ出場を決めました。その他、卓球男子団体・テニス女子団体・山岳女子団体が第3位に輝きました。更に、東京都で行われた国民体育大会のフェンシング競技に門脇璃子選手が県代表の少年女子団体チームの一員として出場し、全国第3位に輝きました。

一方、文化活動においては、長崎県で開催された全国高校総合文化祭に、囲碁部門、将棋部門、合唱部門、放送部門、新聞部門の5部門に参加しました。中でも将棋部門では、女子団体チームが第5位に入賞しました。

新人に切り替わってからは、県新人大会において、フェンシング部が男女団体がアベック優勝、ハンドボール部は男女とも第3位に輝きました。また、東北新人大会では、陸上部の鈴木幹大選手が男子800mで第3位、水泳部の濱本宜輝選手が男子100m平で第3位・200m平で第4位という成績を収めてくれました。文化部では、演劇部が東北演劇発表会において優良賞を受賞し、笹原冴瑛子さんが創作脚本賞を受賞しました。東北将棋新人大会では、松田梢さんが第4位となり、新聞部は全国高校新聞年間審査で奨励賞を受賞しました。

この他にも紙面の都合でここに書き切れない活躍が

多々あります。引き続き次年度も、スポーツ・文化・その他の諸活動において山東生の活躍が大いに期待されるところです。

職員動向

本校に係る平成24年度末人事異動を御報告いたします。転出された皆様の御尽力に心から感謝申し上げますとともに、益々の御健勝を御祈念申し上げます。また、転入された皆様には、本校の更なる発展のために御活躍くださるよう御期待申し上げます。

《転出者》(敬称略)

柳谷	豊彦	(校長)	長・2年)	ご退職
大沼	敏美	(教頭)	頭・2年)	県教育庁へ
鈴木	敏光	(事務部長)	次長・2年)	ご退職
神保	和憲	(国語)	語・10年)	ご退職
片桐	寛英	(地歴)	歴・8年)	県教育庁へ
伊藤	正宏	(理科)	科・10年)	山形工業高校へ
山科	科勝	(理科)	科・10年)	県教育センターへ
芦野	浩二	(数学)	学・10年)	山形中央高校へ
鈴木	雅詩	(美術)	術・2年)	新潟県立新井高校へ
佐藤	敏行	(実習教諭)	論・8年)	荒砥高校へ

《転入者》(敬称略)

佐竹	俊明	(校長)	県博物館より
柏倉	昭夫	(教頭)	県教育庁より
山川	初	(事務部長)	村山総合支庁より
鈴木	尋絵	(国語)	上山明新館高校より
高橋	俊彦	(地歴)	県教育庁より
佐藤	信敬	(数学)	米沢工業高校より
齋野	正能	(理科)	県教育センターより
棚村	好彦	(理科)	南陽高校より
会田	和美	(美術)	上山明新館高校より
大和田	奈緒子	(実習教諭)	楯岡高校より

創立129周年 記念式典 記念講演

山形大学大学院理工学研究科
有機デバイス工学専攻 教授 城戸 淳二氏より
「夢をかなえるために」と題してご講演を頂きました。
その一部をご紹介します。

皆さんこんにちは。創立129周年おめでとうございます。こういうめでたい日にですね、講演をさせて頂けること非常にうれしく思います。私出身大阪なのでこんな感じで大阪弁でしゃべります。今日お話しする内容はこんな感じですね。『成功の秘訣教えたらか』大阪弁らしいでしょ。

■「有機EL」とは

「有機の光、有機EL」って何かな。皆さん高校生やから理科で習いましたよね。有機物と無機物。我々の身体、昆虫、エビ、全部有機物です。例えば有機物で光ってるもの、自然の中でいうと蛍ね。あれなんかは有機物が光ってます。最近ではオワンクラゲね。加茂水族館一躍有名になりましたね。下村先生が光る物質の抽出でノーベル賞をとられたんです。実はこういった有機物の発光っていうのはすごく効率が良いんです。生体反応で光を生み出すんですけども、ほぼ100%だから熱が出ません。ところが電球はめちゃめちゃ熱いですね。電気エネルギーがほとんど熱エネルギーになって、光に変わってるのはほんの一部だからです。だから有機物を使って、発光樹脂を作ることで、ひよっとしたら熱の出ない究極の物ができるんじゃないかなっていうのが我々のモチベーションですね。

2000年に白川先生が「電気を流すプラスチック」でノーベル賞をとられたんです。電気の流れる構造にしたプラスチックは金属の色をしています。この構造が違くと性質が違います。発光する物質の構造を変えると黄色になったりブルーになったりします。実はそれ今計算でできます。そういった研究は、だいたい1980年代かな、大きく広まってきて現在に至るといことです。

■山形大学へ

山大工学部に来たのは、平成元年です。その時の山大工学部ってひどくてね。今だから言えますけど、校舎ボロボロでしょ、装置もないでしょ。どないしようかなと思いました。そこで思ったのはオリジナリティーね。アイデアでは負けへん。装置はないけど俺にはアイデアがあるから。これしかないんやとね。それで色々試行錯誤してたどり着いたのは、白く光らせる方法。これ世界初なんです。白く有機ELを光らせる。これが日本の産業新聞に「有機EL 山大工学部」と載りました。1995年にウォールストリートジャーナルっていう世界の経済新聞の一面に顔出てますね。こういうところまで何もないところから3年～5年ぐらいでたどり着いてるんですね。すごいと思うでしょ。

有機EL研究所を米沢に立ち上げました。我々が手掛けた照明器具が洞爺湖サミットでデビューしました。当時の新成長戦略に、2020年までにLED、有機EL照明100%の実現っていうのを謳ってるわけです。ここに有機ELが入るっていうのは、もう20年近く前に、山大工学部の片隅でぴかっと光ったあれがきっかけになってるわけですね。私がここに書いてるタイトル『夢をかなえるために』ですけども、夢っていうのは自分のやった仕事、研究の成果が実用化されて世の中の役に立つっていうのがその一つです。

■化学への興味

最初は機械工学科に行きました。それで卒業してアメリカに行って、マスター(修士)とって。ちょっと普通と違うんです。勉強がめちゃくちゃ嫌いでした。特に人に言われてやるというのが大嫌い。でも小学校2年の時に、担任の先生がうちの母親に言ったんです。「この子はやれば出来ます。」それを母親から聞いて、「俺は出来るんだ、俺の成績が悪いのは勉強せえへんからや、俺が本気でやったらクラスで1番になれるんや。だから俺は勉強せえへんぞ!!!」って。絶対に勉強が嫌だったんですね。

大学4年の時ね、みんな研究室入るんです。卒業研究ってやるんです。これが最先端やったんですね。そこでは、例えばリチウムバッテリーというものとか、人工血液とか最先端で、それに触れて、やっぱり化学ってめっちゃおもしろいって思ったんです。自分で分子を設計して合成する。それで出来たものって、その人が世界で初めて目にするわけですね。全



く新しい物質です。その面白さに触れて、アメリカに行き、修士取って帰って来ましたよ。めっちゃ勉強しました。いわゆる猛勉強ってそのまんまです。でもそこまでやるとやっぱり自分が変わっていくんです。そして今に至ります。

■アメリカでの4年間

大変だったのが、アメリカの四年間。一番私にとってハードルが高かったのが、学生セミナーっていう、講演会みたいなものです。博士課程の学生が自分の分野を勉強してまとめて、発表する。教授が並んでるんですけども、議論して一時間近くやるんですけども、英語ですよ。何が困ったかっていうと、英語とか全然ダメでした。一番大変だったのが人前緊張症っていう病気です。2年くらいたつとだいたい英会話ってできます。勉強もやったら専門知識増えます。でもほんとに人前緊張症だけはどうしようもない。そこで2か月、3か月くらいからかな、まず準備します。原稿丸暗記したれと思ってね。丸暗記大作戦。30ページ分。20回はしましたね。実際声出しながら。完璧にできるように練習したんです。それで当日その場に行きました。もうビックビクですよ。ただその場に行き、ぱっと始めたら口からでるわ、でるわ。真剣に練習しまくったから勝手にしゃべりまくってるんです。教授とディスカッションできるんです。そこで気が付いたんですね。なんで俺は今まで人前でしゃべられなかったんやろって。そうだ、俺には自信がなかったんやって。だから何かそういった機会があれば、もう徹底的に練習して自信を持っていけば、怖くない。

あのたった一日の講演会がきっかけで人間変わるんですね。アメリカでドクターを取るっていうそのハードルの高さ。それを乗り越えてきたっていう自信。それから人前でしゃべれるようになったっていう自信。それでもうがっとう広がった。だから人間って、特に若ければ若いほど、変われます。基本的にみなさんまだ16、17、18かな。でも人生85年間ですよ。人生って、その最初の16、17年では決まりませんよ。これ間違いないです。みなさんいい高校に入ってますけど、ここで安心しちゃダメなんですよ。絶対ダメです。

■ノーベル賞候補の共通点

中村修二っていう人はね、ノーベル物理学賞の毎年候補です。共通点、長いつきあいをしてきて私ね、わかりました。「似てる」と。まず研究内容。発光ダイオード、有機物を使った発光ダイオード、青色です。次に、ハングリー精神なんですよ。要するに、「絶対ここから抜け出してやる」「こいつらには負けない」とか、そういう願望、モチベーションですよ。これはもう中村先生にしても、白川先生にしても、ノーベル賞受賞者、いっぱい知っているんですけども、彼らに共通してるのはね、まず好奇心が旺盛で

すよ、あとは創造力、それと、根性ですね。だいたい実験っていうのは100回やって1回か2回しか成功しないんですよ。自分の思った通りの成果が出るのはほんとにね、99回の失敗の後に1回くらいですよ。だから、99回失敗してもめげない気持ち、絶対にこれは成功させるんだっていう強い気持ち、それが要ると思います。あと独創的ですよ。人の思いつかないことをやっていますね。

天才っていうのは1%のひらめきと99%の努力ですよ。別の見方をしてみますと、最初に1%のひらめきがないと、凡人がなんぼ努力してもなんにも生まれません。これおもしろいですね。99人の凡人が考えても、なーんにも新しいものは生み出せません。ひとりの天才が必要なんです。ですから、科学者として生きていくにはその1%にならないと意味がないんです。

■夢に向かって

若いうちに、詰め込むことまず詰め込みなさい。それから、トップに重要なことっていうのは目標をもつこと。目標をもたない人間頑張れません。

成功するのに一番大事なこと、それがなにかっていうと、結局私自身、頑張ったのはほんとに中学校の先生の一言ですよ。「お前だったらできるよ」って。それが励みになった。それから自分自身、なんのためにこの世に生まれてきたんやろって、自分自身になるだけ疑問を持つようにしました。私の場合、私はなにかこの時代、ここでなにかを成し遂げることは間違いない、神は俺になにかミッションを与えてくれたんだと。そのミッションを成し遂げるまで俺はこの世からいなくなることはない。自分のミッションのことを考えると、ほんの些細なことで、めげられない。だって私は神にせっかく選ばれてるんだから、絶対ここでへこたれるわけにはいかないと思うと、大丈夫です。そういう自分は選ばれてるっていう認識、それから自分は生きるっていう意識が大切です。自分を信じることなんですよ。それだけです。

20何年前にこういう標語があったんですよ、「Changing the world, one person will change」ちょっとばくらせていただきましたよ、『Changing the nation, one prefecture will change』。今すごい便利な世界ですよ。いろんなものが開発されてます。そこで何か私にできることはないかなっていうと、やっぱり有機ELの研究ですね。まずは山形県から最初よくして行って、徐々に徐々に、日本中に広がって。一気に変わらんからね。10年くらいかかるかもしれませんが、山形から日本を変えて、世界を変えていこうと思います。どうもご清聴ありがとうございました。

体 育 部

母 校 近 況

文 化 部

平成25年度は、生徒達の頑張りによって多くの部が各種大会で好成績を収めてくれました。その中の主な成績を御報告します。

■ インターハイ

フェンシング	男子エペ	齋藤大志郎	出 場
	女子サーブル	門脇 璃子	出 場
	女子フルーレ	門脇 璃子	出 場
なぎなた	個人試合	寺澤 裕希	出 場
	演技部門	寺澤裕希・寺澤裕夏	出 場
スキー	大回転	伊藤あずさ	出 場

■ 国体

フェンシング	少年女子団体	門脇 璃子	第3位
--------	--------	-------	-----

■ 東北高校総体

フェンシング	男子エペ	齋藤大志郎	第4位
	女子サーブル	門脇 璃子	第3位
水泳	男子100m平泳ぎ	濱本 宜輝	第7位

■ 県高校総体

優勝	フェンシング	男子エペ	齋藤大志郎	
		女子サーブル	門脇 璃子	準優勝
		女子フルーレ	門脇 璃子	

なぎなた	個人試合	寺澤 裕希	
	演技部門	寺澤裕希・寺澤裕夏	第3位
卓球	男子団体		
	女子ダブルス	小野・寒河江	

フェンシング	男子団体		
	女子団体		
	男子エペ	五十嵐晃介	
	男子サーブル	大沼 禎	
	女子エペ	神保 瑞希	
	女子サーブル	鈴木さやか	
テニス	女子団体		
	女子シングルス	渡部恵里加	

水泳	男子100m平泳ぎ	濱本 宜輝	
	男子200m平泳ぎ	濱本 宜輝	
	男子400mH	高橋佳奈子	
陸上競技			

■ 東北総体

フェンシング	少年女子団体	門脇 璃子	第2位
山岳競技	リード部門	佐藤 甘奈	第4位
ボルダリング部門		佐藤 甘奈	第4位
総合		佐藤 甘奈	第4位

■ 東北新人大会

水泳	男子100m平泳ぎ	濱本 宜輝	第3位
	男子200m平泳ぎ	濱本 宜輝	第4位
	男子800m	鈴木 幹大	第3位

■ 全国高校選抜山形県予選会

フェンシング	男子団体		第1位
	女子団体		第1位
ハンドボール	女子		第2位

■ その他の全国大会

全日本ユース(U15)水球競技選手権大会			
山形県選抜	東海林勇樹		第3位

世界ジュニア・カデ・フェンシング選手権大会			
カデ部門	女子サーブル	門脇 璃子	第4位

以上のような成績です。生徒達の弛まぬ努力の成果であり、また、来年度の飛躍につながる結果だと思えます。今後とも同窓会の皆さまにご支援をお願い致します。

平成25年度も実り多き1年でした。各部の主な成績をご報告申し上げます。引き続き応援よろしくお願いたします。

■ 演劇

第40回山形県高等学校演劇合同発表会	最優秀賞
第46回東北地区高等学校演劇発表会	優良賞

■ 文芸

県高文祭 詩部門	菅井 優衣(2年)	高文連賞
第15回全国高等学校文化連盟北海道・東北大会		
詩部門	笹原冴瑛子(2年)	参加

■ 新聞

第37回全国高等学校総合文化祭新聞部門	参加
県高校新聞コンクール	優秀賞(第2位)
第18回全国高校新聞年間紙面審査賞	奨励賞

■ 科学

「科学の甲子園」県大会予選	
木村安里(2年)・阿部汐里(1年)	全国大会出場
山形県科学部研究発表会	優良賞(全国高文祭出場)

■ 音楽

第37回全国高総文祭	文化連盟賞
------------	-------

■ 吹奏楽

全日本アンサンブルコンテスト山形県大会	
クラリネット4重奏	銀賞

■ 数学

山形県数学コンテスト(8月9日)	
齋藤幸碩(1年)	最優秀賞

■ 書道

県高総文祭出品	渡部 元(2年)	優秀賞
---------	----------	-----

■ 写真

山形県高校総合文化祭写真作品展	
田中冴実(1年)	優秀賞

■ 囲碁将棋

県高校将棋選手権大会	男子団体	準優勝
	女子団体	優勝
全国高総文祭将棋部門	女子団体	5位(ベスト8)
全国高校将棋新人大会	松田 梢(1年)	ベスト16
県高校囲碁選手権大会	男子団体	第2位
全国高等学校囲碁選手権大会		
男子個人	後藤哲之介	出場
全国高総文祭囲碁部門		
山形県団体	後藤哲之介	出場

■ 放送委員会

NHK杯全国高校放送コンテスト	
アナウンス部門	
吉田実祝(3年)	準々決勝出場(奨励賞)
第37回全国高等学校総合文化祭長崎大会	
ビデオメッセージ部門	文化連盟賞

第64回卒業会名

てん しょう かい
天 晶 会

【命名の由来】

創立129周年、山形県立山形東高等学校として64回目の卒業に際し、我々は決意する。堅固なる絆をして我らがいのちの煌めきを束ねしめ、日月星辰の如く、母なる東北の地にて被災せし同胞の行く末を、極盛の輝きもて照らし出さんことを。

未曾有の大震災に見舞われた春、我々はこの学び舎に集った。日常が非日常と化した日々を、ささやかな灯火を重ねて寄り添い、一歩先の闇を光で照らしながら、休むことなく歩き続けた。3年の星霜を重ねた今、見上げれば光は星に、振り返れば足跡は道になっていた。行く手を阻む闇に怯えていたあの日の若者達は、いつしか力強い光明を纏い、次代を導く標となった。

天を覆う数多の星々が手を取り合って結晶となり、時間と空間を超越して輝き続けるように、我々もその名に相応しい光輝を永久に放ち続けることを誓い、ここに「天晶会」と命名する。

(原案者 3年6組 石沢成美)

おもな大学の合格状況

六三志会 (平成25年3月卒業)

全国的概況として、2012年度のセンター試験のような混乱はほとんど無く、受験生にとっては平素の状態を受験することが出来た。不安定な経済情勢や学生の就職難を背景に「国公立大人気の安定」「理系学部や資格系統学部の人気」は今年度も続いている。2013年度入試の最大のトピックは、センター試験の難化である。国語がセンター試験開始後最も低い平均点となったのをはじめ、数学I・Aなども大きく平均点がダウンし、受験生にとっては厳しいセンター試験であった。一般入試の志願状況は、このセンター試験の難化の影響があらわれた。特に国公立大については、手堅い出願のようである。また、近年の入試の全国的傾向である「文低理高」「資格志向」「地元志向」は模試段階からほぼ一致しているようだ。

本校の概況として(表は現浪を含めた数値)、現役進学者数170名(71.1%)、うち私立が41名(含自治医科大・防衛大)、69名が浪人という結果である(H25.4.1判明分)。卒業学年は、1学年時から計画的な指導を行い、面談、志望別集会などを通しての集団化、団体戦の意識づけ、挑戦する強い気持ちと高い志を植え付けてきた。模試の推移も好調であった。その都度課題を分析し対処してきた学年である。ただ、センター試験難化は少なからず影響した。医学部医学科については、推薦・一般入試いずれにせよセンター試験で高得点をとることが必要条件といえる。国公立大医学部医学科8名、愛知医科1名、聖マリアンナ2名、自治医科1名の合計12名が現役合格であった。

難関大学・難関学部の志望達成には1、2年次の基礎の確立が最も重要と考える。つまり、日常(授業)をいかに大切にするか。文武両道を標榜するにあたり、片方を一方の言い訳にしているか。将来のキャリアデザインを持っているか。今後とも併せて指導していきたい。

平成24年度 全大学合格者数(延人数) 単位：人

【国立大学】

大 学	人 数
北海道	1
弘 前	2
岩 手	2
東 北	文 12
	教 2
	法 5
	経 6
	理 1
	工 8
	農 3
	医 0
	保 5
	歯 1
	薬 1
	全 44
宮城教育	3
秋 田	1

大 学	人 数
山 形	医 2 全 15
福 島	1
茨 城	1
筑 波	4
埼 玉	3
千 葉	2
東京海洋	1
お茶の水	4
東 京	文 3 理 2 計 5
	東京外国語
東京学芸	4
東京芸術	1
東京工業	1
東京農工	1

大 学	人 数
横浜国立	1
新 潟	20
金 沢	2
信 州	1
京 都	3
大 阪	2
奈良女子	1
九 州	1
長 崎	1

【公立大学】

大 学	人 数
秋田公立美術	1
山形県立保健医療	1
福島県立医科	3
高崎経済	1

【私立大学】

大 学	人 数
東北学院	7
東北薬科	3
北 里	4
慶應義塾	4
芝浦工業	4
中 央	5
津田塾	3
東京女子	3
東京理科	6
法 政	10
明 治	17
立 教	2
早 稲 田	13
聖マリアンナ医科	2
愛知医科	1
同 志 社	2

大 学	人 数
自治医科	1
そ の 他	40

【計】

大 学	合 計
国立大学	129
公立大学	6
私立大学	127
(国公立医学科)	17
(私立医学科)	8
合 計	262

全大学の合格者は山形東高校のホームページ(<http://www.yamagatahigashi-hed.jp>)の「進路指導」に掲載しておりますのでそちらをご覧ください。

天晶会 (平成26年3月卒業)

現教育課程での最後の入試となった。出願状況についてはこのことも影響したためか、より安全志向になったと考える。東北大はAOⅡで1名、AOⅢで11名、前期試験28名で合計40名の合格。東大は文系1名、理系4名の計5名。前期現時点(3/10)での情報として、過年度は3名で合計8名の合格。現役二桁は厳しかった。京大については、文系2名である。一橋大1名、東工大は1名の合格。医学部医学科については東北大1名、山形大学1名、秋田大学2名、新潟大学1名、私立で岩手医科大1名、獨協医大1名、金沢医大1名、帝京大1名の合計9名であった。過年度は東北大2名、山大1名、弘前1名、秋田1名、福島県立1名の情報がある。国公立大医学部医学科についてはセンター試験の高得点が必要条件である。

平成26年度 同窓会総会・表彰式・まつり

- ◆ 日 時：平成26年10月17日(金)
総会は午後5時30分より
- ◆ 会 場：メトロポリタン山形
- ◆ 会 費：5,000円
(チケット購入は各学年の評議員に申し込み下さい。)
(評議員は同窓会役員欄に記載してあります。)
- ◆ 当番幹事：東紋会(山東27回)
東珀会(山東49回)

第59回体育部OB会総会



平成26年2月2日に約300名の諸先輩方が山形グランドホテルに集い、盛大に開催されました。出席者は、吹奏楽部と応援団の「突撃のテーマ」の演舞に胸を高鳴らせ、諸先輩方の現役時代の武勇伝に若き日の思いを馳せ、そして、現役体育部のより一層の活躍を願いつつ、あっという間に過ぎ去った2時間でした。当番幹事はバレーボール部とバスケットボール部でした。

総会では、第50回体育部OB会功労賞受賞者や平成25年度体育部活動状況などが報告され、また、平成25年度決算、平成26年度予算案などが付議され、満場一致で承認されました。

懇親会では全員で校歌を斉唱し、茂木賢一会長から、現役のより一層の奮闘を願い体育OB会が支援していく事を約束し、佐竹俊明校長に強化費が贈呈されました。また、茂木会長から、昨年山形県副知事に就任された細谷知行氏の紹介がありました。次に、佐竹校長からは、平成25年度の東北大会やインターハイ上位者の紹介と、平成26年度も、より一層奮闘していくことが述べられました。浜田敏同窓会会長の激励の挨拶に続いて、第50回体育部OB会功労賞受賞者の表彰が行われ、代表して野球部OBの遠藤英則氏からお礼の挨拶をいただきました。その後、今回から新たに体育部OB会に参加するテニス部が紹介され、梅津陽一郎氏から挨拶がありました。最後に、応援団OBが登壇し、全員で「おお勝利」を高らかに斉唱、万歳三唱を行って閉会しました。なお、次回の当番幹事は陸上競技部とフェンシング部です。第50回体育部OB会功労賞受賞者は以下の通りです(敬称略)。高橋利秋、今田修一(水泳部)、志田吉雄、遠藤英則(野球部)、鈴木省三(山岳部)、江口茂(弓道部)、三橋博三(卓球部)、佐藤吉昭、多田恵汎、高内邦彦、冨塚知宏、菅原和敏(バレーボール部)、加藤岳(パドミントン部)、斎藤亮一、島崎和雄(フェンシング部)、安部宏(応援団)、高山眞一、佐藤秀昭(ハンドボール部)、芦野浩二、伊藤正宏、片桐寛英、佐藤敏行、山科勝(学校関係者)

(23回卒バスケットボール部 横山弘士 記)



第21回山東文化部OB会

平成25年7月26日(金)、山形グランドホテルにおいて「第21回山東文化部OB会総会」が、浜田敏同窓会長はじめ多くの来賓のご臨席のもと多数の会員が集い盛大に開催された。総会においては、吉田眞一郎会長が議長となり、前年度の事業及び決算報告、そして本年度の事業計画と予算が審議され、いずれも満場一致で決承認された。

記念講演は、「池田敏晴と人魚伝説」の演題で映画監督であり東北芸術工科大学学長の根岸吉太郎氏に講演を頂きました。故池田敏晴氏は山東19回卒(鵬雲会)で映画監督として、1984年の人魚伝説な



ど情熱ある作品を制作された方です。その後、懇親会に移り同窓会長、学校長の挨拶、体育部OB会会長の乾杯で会員同士が和気藹々の懇親を深めました。席上恒例の音楽部による合唱などもあり大いに盛り上がりしました。当番幹事でありました物理部・新聞部・文芸部の会員の皆様ありがとうございました。次回第22回総会当番部は、音楽部・吹奏楽部・マンドリン部になりますが、新たな出発として多数のOB会員の出席を期待しておるしだいです。

(幹事長 武田信博 記)



お詫びと訂正

平成25年4月1日発行の会報で次の誤りがありました。お詫びをして訂正いたします。

- ◇ 11 ページ 喜寿の祝いの表題を「古稀会」と訂正
1行目：昭和30年卒業と訂正
- ◇ 13 ページ 敬弔の7月31日 土屋春雄氏 と訂正
上段 工藤公正氏(山東7回)、
佐藤之也氏(山東7回)は健在です。
- ◇ 14 ページ 平成24年度予算執行状況の収入の部
予算額補正合計を「981,613」と訂正
- ◇ 15 ページ 大石田支部長を「織江 祐智」と訂正

母校創立130周年記念事業について

今年10月29日に母校は創立130周年記念日を迎えます。同窓会では平成24年7月20日に創立130周年記念事業実行委員会を設立し、次の記念事業を決定し、今年8月31日まで募金活動を行います。目標募金額にもう一步です。募金がまだの方はご協力を宜しくお願いします。

- (1) 東日本大震災の記録作成
- (2) 記念コンサートと東日本大震災をテーマにアーティスト、生徒、同窓生の交流の場
- (3) 母校歴史資料の保存と展示
- (4) 西校門（生徒通用門）周辺整備
- (5) 山東奨学会への寄附

それぞれの事業内容について2月までの状況を報告します。

(1) について

生徒の記録40人分と同窓生より寄せられた34人の記録が同窓会ホームページに「東日本大震災と山形東高の生徒・同窓生の記録」として載せられています。これらの記録と平成24年に災害地ボランティア活動を行った生徒の記録・新聞記事等を記録誌として10月までに発行します。

(2) について

期 日：10月23日（木）13：20～15：30（予定）

会 場：やまぎんホール（前県民会館）

演奏者：松田 理奈（ヴァイオリン）

入場者：招待者、生徒、職員、保護者、同窓生

入場無料ですが整理券を準備します。

（9月評議員会で詳細を知らせます。）

(3) について

山東講堂内にある同窓会事務局室を暫定的な展示室にすることで進めております。母校の「学校史料整備委員会」が学校史料の整理を行い、同窓会史料編纂委員が同窓会史

料の整理を行っております。平成25年度は8月末の山東祭で「山東歴史資料の展示」を教室棟で行いました。今年度も山東祭で同様の展示を行います。

(4) について

奥山清行氏事務所のご厚意により、無償でデザインプランを引き受けてくださっております。第1回プランの見積額が高額でしたので再度デザインプランをお願いし、第2回プランとそのイメージ図が届けられました。現在の募金額ではプランの一部の施工となりますが、募金額がもっと増えればイメージ図に近い施工が可能となります。

（事務局 今野雅行 記）



六 翠 会

今年、「喜寿」の学年、「六翠会」です。表彰を受けた者63人、等しく感銘を受けました。

その前日には、六翠会の「最終総会」を開催、一晚懇ろに語り明かし、翌日には「最上舟下り」や「羽黒山参拝」など、往時の遠足気分を味わって、晴れの表彰式に臨みました。

憧れの山東入学は、昭和28年。それから60年、半世紀を超える、長いお付き合いです。高校3年間机を並べ、その後はそれぞれの道を進みましたが、戦後間もない貧困の時代から、国力も次第に回復してくる復興の時代、更に高度経済成長の時代に、私た

ちは少なくともその一翼を担いながら、頑張った世代だと思っています。同時に自然破壊や環境問題など、それによる「ひずみ」も体験しながら生きてきました。

その間、同窓、同期という「絆」を大切にしたいという趣旨で「六翠会」を発足させ、定期会合を持ち、互いの親睦を深め、母校の周年行事等にも相応の支援をしてきました。

このたび、喜寿を機に、会としてのこれまでの活動の記録や思い出を、『記念誌六翠会』という冊子に纏め上げました。あの時、あの頃のことを昨日のように蘇り、思いは極めて複雑です。

（木村宰 記）



平成25年度 予算執行状況

(平成25年4月1日～平成26年1月31日)

収入の部

(単位：円)

Table with 5 columns: 科目, 予算額 (当初, 補正, 計), 収入額, 摘要. Rows include 維持会費, 入会金, 繰越金, 雑収入, 合計.

支出の部

(単位：円)

Table with 5 columns: 科目, 予算額 (当初, 補正, 計), 支出額, 摘要. Rows include 総会費, 会議費, 表彰費, 会報発行費, 通信費, 慶弔費, 諸手当, 生徒活動費, 奨励費, 連絡費, 資料整備費, 事務費, 寄付金, 積立金, 振込料金, 予備費, 合計.

※収入の維持会費は振込料金を含めた金額である。

平成26年度 予算(案)

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

収入の部

(単位：円)

Table with 5 columns: 科目, 本年度予算額, 前年度予算額, 比較増減, 摘要. Rows include 維持会費, 入会金, 積立金より, 繰越金, 雑収入, 合計.

支出の部

(単位：円)

Table with 5 columns: 科目, 本年度予算額, 前年度予算額, 比較増減, 摘要. Rows include 総会費, 会議費, 表彰費, 会報発行費, 通信費, 慶弔費, 諸手当, 生徒活動費, 奨励費, 連絡費, 資料整備費, 事務費, 寄付金, 積立金, 振込料金, 予備費, 合計.

※収入の維持会費は振込料金を含めた金額である。

山東奨学会

平成25年

- 3月21日 奨学生審査会
3月27日 第49回理事会・第62回評議員会理事の選任
平成24年度補正予算案基本財産の運用
平成25年度事業計画案
平成25年度予算案
3月27日 奨学金贈呈式 2名に贈呈
6月4日 第50回理事会・第63回評議員会
平成24年度事業報告
平成24年度収支決算
常務理事の互選
評議員の選任
最初の評議員候補者の推薦
8月28日 最初の評議員選定委員会
最初の評議員選任
9月26日 第51回理事会・第64回評議員会
公益財団法人移行後の役員
公益財団法人山形東高奨学会定款案
公益財団法人移行認定申請書の提出

慶 祝

(同窓会報65号掲載以降～平成26年2月17日まで)

- 平成24年
12月21日 「NRI学生小論文コンテスト」
大学生の部大賞受賞
山本 泰弘氏(山東56回)
平成25年
3月29日 旭日小綬章
玉虫 義孝氏(山東3回)
瑞宝小綬章
4月29日 笠原 亮太氏(山東10回)
旭日双光章
高橋 優二氏(山東9回)
瑞宝双光章
榎本 和彦氏(山東8回)
旭日単光章
柏倉 昌経氏(山中61回)
10月29日 瑞宝双光章
深瀬 剛氏(山中57回)
11月1日 山形市三浦記念賞
園部 稔氏(山東10回)
11月3日 藍綬褒章
長谷川吉茂氏(山東18回)
旭日小綬章
有海 躬行氏(山東8回)
瑞宝小綬章
横川七七一氏(山東13回)
旭日双光章
沢渡 和郎氏(山東11回)

- 瑞宝双光章
高橋 邦夫氏(山東9回)
教育者文部科学大臣表彰
阿部 和久氏(山東22回)
11月20日 旭日双光章
大類 昭夫氏(山東5回)

篤志寄付

(同窓会報65号掲載以降～平成26年2月20日まで)

- 平成25年
6月4日 図書購入費10万円
山形市役所山東会
6月13日 130周年記念事業費20万円
東三会(山東3回)
12月24日 「楽器の物理学」寄贈
(岸憲史等訳) 岸憲史氏(山東13回)
平成26年
1月8日 「東北民衆の歴史-近代」遺稿集
伊藤重道氏(山東9回) 遺族
山東奨学会への基金10万円
六翠会(山東6回)
2月19日 教育奨励費20万円
山形県庁東高会
(部活動費10万円、図書購入費5万円、奨学会基金5万円)
2月20日 130周年記念事業寄附50万円
山形県庁東高会

各同窓会だより

(順不同)

◇山形県庁東高会

山形県庁東高会は、会員数302名で運営され、会員相互の親睦を図るとともに母校への支援活動を行っております。

毎年、2回の定期総会を開催しており、平成25年度は矢口俊雄会長以下新たな役員体制のもと、山形市内のホテルにおいて、6月13日に第1回総会、2月20日に第2回総会を開催いたしました。総会は、校歌斉唱にはじまり、ご来賓の方々からご祝辞をいただき、また、母校への支援活動の一環として図書購入費、部活動奨励費及び奨学会基金を矢口会長から贈呈させていただきました。引き続き懇親に入り、酒肴を囲んで懇談し、旧交をあたためたところです。最後に「おお勝利」を謳い上げ、万歳三唱を行い、散会いたしました。

◇山形市役所東高会

山形市役所東高会は総勢141名が一丸となり、市勢の発展のため、日々頑張っております。

さて、当会では会員の親睦を図るため、毎年、総会と新年会を開催することとしております。

昨年5月29日に開催した総会では、浜田同窓会長、柏倉教頭先生、今野同窓会事務局長からご臨席を賜り、母校の活躍や同窓会の近況を伺いながら、時間の経つのも忘れ大いに盛り上がりしました。

また、今年1月30日に開催した新年会では、今年度をもって退職される会員の方々を囲み、思い出話を花を咲かせました。

これらを通じ、会員同志の絆をさらに深めたところであります。

◇上山山形東高等学校同窓会



平成26年1月26日に三木屋旅館において第62回親睦同窓会を37人の参加のもと開催しました。ご来賓として、

浜田同窓会長、佐竹校長、今野事務局長をお迎えし、役員改選では中村会長ほか全員の役員の再任を承認いただきました。

総会後の親睦会では、記念写真撮影の後、乾杯を行い、和やかに楽しい時間が過ぎていきました。

盛り上がってきたところで残念ながら時間となり、全員で応援歌を斉唱し、万歳三唱後、またの再会を誓って散会となりました。(江口敏昭 記)

◇寒河江支部

支部総会は平成25年9月21日ホテルシンフォニーにおいて第4回卒～第42回卒の40名の参加を得て滞りなく開催された。総会後の講演会は、女子力で山形を元気にしようとして活躍中の山形女子フェス実行委員長志田美穂子さんを迎え「山形はこんなに美しかった」とのテーマで出羽三山の山伏修行体験などや外から見た山形の素晴らしさをお話しいただいた。

懇親会では、尾形支部長挨拶に続き本部の浜田同窓会長と佐竹校長に母校の近況報告をお話しいただいた。また、支部会員には同窓会長や校長と同期の者もおお和気あいあいと大いに盛り上がった懇親会となった。



(事務局長 菊地正明 記)

◇栃木県支部

栃木県支部の総会及び懇親会は小春日和の11月17日(日)、宇都宮市内のレストランにおいて、塩野会長、志田副会長、矢吹副会長始め12名の参加で開催しました。総会は事務局の交代(古澤さん、鏡さんご苦労様でした。)や規約の改定が満場一致で議決され、東高1期志田寿夫様の興味深い講演を拝聴し無事終了、懇親会に移り、恒例の山形の味を移植した芋煮を楽しみながら、皆様のスピーチや自作の歌で大いに盛り上がりしました。

栃木県支部は47名の会員が登録されていますが、近年参加者が10数名の上、出席者の高齢化が進み、若い方の参加をどう実現し参加者増加に繋げていくかが、課題の一つでした。今回は未だ現役で活躍されている方も数名参加され、もうすぐ迎える定年後の生活をどうすればよいか先輩の助言をいただきたいとの発言があり、参加の諸先輩より近況報告していただき、大いに参考にしてもらいました。今後若い方にも参加してもらうために、今後取り組むべき課題の解決の糸口が見つかった気がしました。



散会しました。

最後に応援歌「おお勝利」と校歌を歌い、東高9期古澤昭様の音頭で締めて、来年11月16日に再会することを約束し(武田康夫 記)

◇尾花沢支部

尾花沢支部総会は、10月19日に柏倉昭夫教頭先生と今野雅行事務局長をお迎えして、市内「みやこ」で開催されました。

総会に先立ち、会員の富士盛良一氏から、「仏様を訪ねて」と題して講演をいただいた。仏教の伝播ルート、仏様の呼称・表記、釈尊の八大聖地、インドのカーストなど、興味深いお話をうかがった。

総会後は、山中最後の卒業生となった佐藤政弘会員(山中61卒)から、現在の校章の由来についての話があり、郷土料理を楽しみながら、楽しいひとときを過ごした。また、今年は初参加の会員もあり、懇親を深め、「おお勝利」でお開きとなった。(鈴木欣一 記)

◇米沢支部

山形東高同窓会米沢支部総会が7月9日夜、米沢市の東京第一ホテル米沢で開催され、同窓生42名が出席。また佐竹俊明校長先生と本部同窓会から浜田敏同窓会長、今野雅行事務局長を来賓としてお迎えいたしました。

総会に先立ち恒例の講演会が開かれました。昭和50年卒 武田昌裕氏(山形銀行米沢支店取締役支店長)による「米沢の近未来」でした。高校を卒業後多くの生徒が県外の大学に進学、また、県内の大学に進学しても卒業後は山形に戻ってくる生徒が少ないことなどがデータで紹介されました。魅力的な県内の企業が少なくもあげられますが、「ふるさと」で起業する逞しい人材を育成する教育もまた重要です。ふるさと納税の話題も提供していただき、さっそく渋間氏が米沢市から取り寄せました資料を配布する場面も見られました。

懇親会では、昭和28年(東校舎)卒業の鈴木文男先輩の音頭で乾杯、また、米沢市に在住の伊藤和夫元山形東校長も出席してくださり近況をお話ししていただきました。



平成卒業の同窓生が14名(平成20年卒も出席)。幅広い年代での出席が今年の特徴でした。最後に、平成17年卒の押切俊氏の音頭による万歳三唱で閉会となりました。

(支部長 大野木利永 記)

◇関西山中山東同窓会

第17回総会・懇親会が10月26日(土)にJR大阪駅近くの弥生会館で開催されました。懇親会には遠く山形より、佐竹校長先生、浜田会長と今野事務局長にご臨席いただき、母校の近況や創立130周年事業について伺いました。前回より、若い方の出席者が増えています。今回



は28名もの出席者でした。例年同様一人一人が近況報告をして、時間ぎりぎりまで盛り上がりました。多くの会員が二次会に参加をし、さらに親交を深めました。

◇東海同総会

平成25年の東海支部総会は昨年11月16日に開催され、山形から浜田会長・今野事務局長・母校の佐竹校長先生をお迎えしました。又、山形県名古屋事務所所長と東海山形県人会副会長も来賓として列席していただきました。

総会の後恒例となった講演は、知多信用金庫特別顧問の「高橋優二(昭和34年卒)」氏に『老金融マンのひとりごと』の演題で講演をお願いしました。長年銀行マンとして蓄えられた知識を披露して頂き、現状の金融の世界を解りやすく説明して頂きました。



親睦会では初参加の「水野宏(昭和21年卒山中59回)」氏から支部に寄託された、画集『山形東高等学校校舎』・作者「前田春治(昭和23年卒 山中61回)」の説明を受けました。昭和30年頃と思われる木造の校舎を描いたもので貴重な画集です。画集は昭和56年に、前田氏と同じ山中の同級生有志が刊行したものです。画集は現在支部事務局で管理しています。

平成26年の支部総会は、11月15日に開催します。支部を発足し、総会開催開始から15年となります。節目の年なので、多くの同窓生の参加を募ります。

(副会長 酒井和義 記)

◇仙台同総会

仙台同窓会は11月14日(木)、来賓に同窓会本部の佐藤松兵衛副会長・今野事務局長と母校の柏倉昭夫教頭先生を迎え、総会を開催しました。

総会では、11月1日に逝去された第2代会長の故・結城元行氏(山中57回)を偲んで黙祷を捧げた後、土田正和会長(山東7回)を議長に、会務報告、会計報告、役員改選と滞りなく議事が進みました。新役員として大沼達朗さん(同52回)が会計監査に就任しました。

引き続き開催された懇親会では、フレッシュな女性会員を交えて世代を超えた懇談と、恒例の「はなぶさ真二」

(大沼信正会員：同13回)のミニ・コンサートで大いに盛り上がり、最後に嵐田光宏(同13回)、菅谷昌隆、鈴木武浩、布施英司(3名とも同32回)の各氏のリードで校歌と「おお勝利」を斉唱し、盛会のうちにお開きとなりました。(齊藤豊 記)

◇山辺支部

平成25年度総会(第33回)を昨年12月7日、町内の「三河屋」で開催しました。例年のとおり12月の第一土曜日にあたり、何かとご多用のなか、鈴木同窓会幹事長、佐竹校長先生、今野事務局長をお迎えし、合わせて22名の出席者となりました。最年長者は、昭和23年・山中61回卒「六一会」の方、若手は平成10年・東高48回卒「天成会」の方。渡辺甚一郎支部長の挨拶、佐藤孝男顧問による乾杯の発声で始まった懇親会は、同じ町内に居住しながら顔を合わせる機会は年一回のこの時ばかり、という方もあって賑やかに進みゆき、お酒をいただきながら心も身体も“ゆったり、ほっこり”する一時を共有することができました。

(幹事長 三浦繁則 記)

◇大石田支部



豪雪地域の
大石田には
珍しく雪の
少ない年明け
となった1
月18日、恒
例の大石田支
部総会を町内
「蕎麦屋まん

きち」にて開催しました。

ご来賓に浜田同窓会長、柳谷校長先生、今野同窓会事務局長をお迎えし、また、尾花沢支部からも富士森支部長はじめ3名の方々にご出席いただき、総勢30名での賑やかな総会となりました。

会では、山形放送の本間社長に花束と記念品を贈呈し、社長就任をお祝いしました。

懇親会では、地元ならではの美味しい料理や次年度産どぶろくをいただきながら、青春時代を懐かしみ語り合い、最後に大石田名物の新そばを堪能し、また来年の再会を約束してお開きとなりました。

(事務局 大類 記)

◇河北支部

平成25年9月23日に浜田同窓会長と佐竹校長先生を来賓にお迎えし、河北支部総会を開催しました。祝辞で

は母校の新人戦での活躍や同窓会の近況を伺い、新入生において女子生徒数が男子生徒数を上回ったという話に驚かされました。



その後の懇親会では、会員の近況や高校時代の思い出話に花を咲かせ、特に今年より参会いただいた多田河北病院長のエネルギー話で大いに盛り上がりました。最後に恒例となった「おお勝利」を合唱し、散会いたしました。

◇東根支部

東根支部、再開しました。

平成25年8月7日、およそ6年ぶりの総会を、東根温泉青松館にて開催。当日は、浜田同窓会長、佐竹校長、今野事務局長にご臨席賜り、土田市長ほか約40名の参加を得て、和やかな雰囲気の中で旧交を温めて頂きました。

いや、旧交というより新交。どこかで見かけたもの話すのは初めて、という方も多く、意外と近くの様々なところで頑張ってる方々と話ができて、「たまにはこういう集まりもいいな」という声を、若い方からも頂きました。

地道に、細くとも長く、場を続けることに意義あり、と事務局の任に当たり感じたところです。

異業種、異年齢、年に一度はこの校歌の下で!

(東根支部 幹事長 森谷健 記)

天童支部

5月には恒例の、天童市出身の新入生激励会を、天童ホテルにて実施した。参加した新入生30名弱に対し先輩が激励し、和やかに昼食をとり質疑応答などのあと散会した。

11月には2年に一度の支部総会・懇親会を行った。先立って、久野本出身の先輩で、東北大学名誉教授・日本学士院賞を受賞された加藤康司氏から、「ロハスの文明と文化」と題して公開講演があり、一般参加者20名を迎え、科学技術の発展とこれからの人類の進むべき道など、示唆に富んだお話を頂いた。その後総会で、新支部長に森谷英夫氏を選出、新たな体制が承認された。懇親会では鴻志会の柴田先輩の乾杯で、多くの先輩・後輩をお迎えして歓談し、「おお勝利」と「校歌」で締めた。

(幹事長 松村澄男 記)

敬 弔

同窓会報65号掲載以降～平成26年2月17日までに判明した方々です。

- 平成16年
8月 宇野 徹氏 (山東25回)
- 平成22年
4月 今野(海谷)正男氏 (山中50回)
- 平成24年
羽角 透氏 (山東59回)
1月22日 渡辺 宗雄氏 (山東2回)
9月18日 小野 幸三氏 (山中50回)
10月 小佐野元志氏 (山東7回)
10月21日 斎藤 哲氏 (山中58回)
12月25日 川崎 徹氏 (山東1回)
12月29日 佐藤 孝一氏 (山中57回)
- 平成25年
酒井 倫夫氏 (山東1回)
清水 恵助氏 (山東9回)
1月11日 結城 信美氏 (山中59回)
2月4日 高橋 弘忠氏 (山東2回)
2月24日 大國 正治氏 (山中57回)
3月 遠藤 正延氏 (山中50回)
3月3日 玉虫 義孝氏 (山東3回)
3月5日 戸津 侃公氏 (山中46回)
3月9日 辻 博氏 (山東1回)
3月9日 鈴木利美子氏 (山東1西)
3月9日 青山 誠也氏 (山東7回)
3月10日 飯田 貞夫氏 (山中57回)
3月10日 黒沼 汪氏 (山東11回)
3月12日 三浦 新氏 (山東9回)
3月16日 室星 啓祐氏 (山中57回)

- 3月18日 三浦 久夫氏 (山中55回)
4月 武田 清氏 (山東3回)
4月3日 来生 徹氏 (山中55回)
4月5日 石川 博一氏 (山東4回)
4月13日 武田栄四郎氏 (山中56回)
5月2日 松田 一郎氏 (山中57回)
5月2日 石澤(安達)ヒサ氏 (山東2西)
5月10日 木村 健司氏 (山東5回)
5月13日 石田 弘氏 (山東14回)
5月21日 若生 形氏 (山中51回)
5月22日 渡辺 勇氏 (山東7回)
5月29日 佐藤(安藤)一枝氏 (山東2西)
6月7日 里見 明氏 (一高2回)
6月11日 奥山 保氏 (山中53回)
6月11日 斎藤 隆夫氏 (山東9回)
6月12日 太田 昭夫氏 (山中58回)
6月14日 加藤 稔氏 (山中61回)
6月15日 為本六花治氏 (山中62回)
6月15日 栗原 邦夫氏 (山東7回)
6月16日 和泉 昌平氏 (山中57回)
6月20日 布施 正俊氏 (山中53回)
6月22日 長井 良彦氏 (山東6回)
6月24日 堀 寛氏 (山東1回)
6月25日 馬込(中村)シン子氏 (山東2西)
6月26日 石川 精一氏 (山東1回)
6月27日 阿部 賢一氏 (山東14回)
6月29日 木村(長橋)二郎氏 (山中59回)
7月11日 鈴木 喜内氏 (山中45回)
7月16日 木村 誠氏 (山東24回)
7月22日 渋谷 嘉一氏 (山中51回)
7月27日 菊池 章氏 (山東21回)
8月2日 三澤(穀野)玲子氏 (山東3西)
8月7日 吉田 恒雄氏 (山中56回)
8月10日 山口 茂正氏 (山東7回)
8月14日 鎌水 惣一氏 (山中58回)
8月16日 山口 利男氏 (山中55回)
8月22日 日下 常由氏 (山東1回)
9月3日 宮川 匡彦氏 (山東6回)

- 9月8日 小笠原 徹氏 (山東28回)
9月11日 阿部 昌司氏 (旧職員)
9月18日 大沼 英一氏 (山中60回)
10月10日 渡辺 民夫氏 (山中55回)
10月10日 藤田 昌也氏 (山東22回)
10月19日 斎藤畑之介氏 (一高1回)
10月27日 稲毛 重善氏 (山中55回)
10月28日 五島 哲夫氏 (山中57回)
10月29日 大類 昭夫氏 (山東5回)
11月1日 結城 元行氏 (山中57回)
11月3日 宇野 圭一氏 (一高2回)
11月10日 生亀 和明氏 (山東4回)
11月16日 斯波 宏輔氏 (山東16回)
11月21日 岩瀬 久男氏 (山中54回)
11月25日 木俣 繁氏 (山中59回)
11月26日 長谷川利貞氏 (山東2回)
11月30日 那須 政一氏 (山東2回)
12月10日 小野寺(松本)弘子氏 (山東1西)
12月10日 伊崎 茂幸氏 (山東3回)
12月14日 五百澤智也氏 (山東2回)
12月15日 鈴木 金吾氏 (山中58回)
12月18日 加藤 順功氏 (山東7回)
12月22日 原田 傳六氏 (山中56回)
12月23日 東海林俊昭氏 (山東3回)

- 平成26年
1月5日 阿部 勉氏 (山中57回)
1月6日 大沢 衛氏 (山東11回)
1月13日 石黒(井上)公仁子氏 (山東2回)
1月15日 白井(佐藤)英俊氏 (山東9回)
1月16日 横尾 昌和氏 (山中60回)
1月23日 白田 重美氏 (山中52回)
1月27日 水戸部繁己氏 (山中58回)
2月3日 渋谷 重男氏 (山中61回)
2月10日 伊藤 公一氏 (山東3回)
2月12日 居駒 和雄氏 (山中55回)
2月15日 工藤 正幸氏 (山東7回)

事務局日誌

- 平成25年
4月6日 事務局会議
構成・業務分担
(まつり実行委員会は随時)
4月8日 平成25年度入学式(学校)
5月14日 第1回役員会
平成24年度決算、
平成25年度事業計画・予算
5月29日 山形市役所東高会総会
6月13日 山形県庁東高会総会
7月1日 臨時役員会(三役会)
7月9日 米沢支部総会
7月10日 全国大会出場選手激励会
7月26日 文化部OB会総会
8月7日 東根支部総会
8月8日 会計監査

- 8月28日 第2回役員会
平成24年度事業報告・決算・監査報告、
平成25年度事業計画・予算、役員選出、
平成25年度同窓会総会・表彰式・まつり
130周年記念事業報告等
8月30日～9月1日
山東祭(学校)
同窓会「山東歴史資料の展示」
8月31日 「30歳になったら東高に帰ろう」
ホームカミングデー東晩会(とうぎょうかい)
9月4日 第1回評議員会・第2回常任委員会
第2回役員会と同じ内容
9月21日 寒河江支部総会
9月23日 河北山東会総会
10月18日 同窓会総会・表彰式・まつり
10月19日 尾花沢支部総会
10月26日 関西山中山東同窓会総会
10月29日 創立129周年記念式典(学校)
11月14日 仙台同窓会総会
11月16日 山中山東東海同窓会総会
11月17日 天童支部総会

- 11月29日 山中山東東京同窓会懇親会
12月7日 山辺支部総会
12月12日 最上支部総会
平成26年
1月18日 大石田支部総会
1月26日 上山山形東高同窓会親睦総会
2月2日 体育部OB会総会
2月12日 第3回役員会
平成25年度補正予算、
平成26年度事業計画・予算、
130周年記念事業について
2月19日 第2回評議員会・
第3回常任委員会
第3回役員会と同じ内容
2月20日 山形県庁東高会総会
2月28日 同窓会入会式 平成26年卒
山東64回 天晶会
3月3日 平成25年度卒業式(学校)
3月4日 まつり幹事引継会

正門脇の記念碑について —徳目学級であった最後の生徒達—

平成25年4月30日の日付で山形県立山形東高等学校第一回卒業生が母校にブック型の石碑を寄贈しました。終戦後、1組、2組、3組・・・といったナンバー制になりましたが、私たちが山形中学校に入学してから8月までの僅かな期間でしたが、「順」「良」「正」「直」という徳目学級でした。会員同士で集まった時には今でも「順組」「正組」を使うなど思い入れが強いです。そのため教えで80歳になった2011年の総会で記念碑を建立することを決議し、準備を進めてきました。

明治41(1908)年赴任した東大哲学卒業の第14代板垣政一校長は、剛毅果敢、情に厚く生徒、教職員、父兄からも非常に慕われたそうです。訓育に重点を置いた板垣校長は、全国にも例をみない徳目による学級名を定めました。その徳目は山中精神となって、終戦末期まで学級名にもちいられました。

戦後日本は平和主義を基調に民主化教育に大転換しましたが、山中精神の「文・武・徳」のうち、その「徳」が失われてしまいました。21世紀の今日、日本人には心の豊かさこそが求められていることを痛感しております。碑文にはその徳目を紹介し、人間づくりの糧になってほしいと願うものであります。

私たちは急迫を極めた戦時下の昭和20年、授業が停止され防空壕掘り、グラウンド開墾などに明け暮れた日々を送り、8月終戦を迎えるとアメリカ進駐軍による軍国主義一掃政策のもと、柔剣道の武道排除や黒塗り教科書を使用するという一大転換の民主化教育を受けました。

さらに山中は学制改革によって新制高校の山形県立第一高等学校となり、私たちは暫定的に設けられた併設中学校に編入され、2年後の25年、一高は旧第二高女の五高と統合し山形県立山形東高校に生まれ変わります。講和条約締結後、占領政策が後退した27年には西校舎は山形北高校として分離独立します。

私たち山形東高第一回生はこうして26年3月学舎を後にしますが、山中入学以来、中学と高校の6年間本校に在学し、学校名が4回も変わりました。まさしく戦中・戦後の激動と混乱の時代に学校生活を送った特異な学年であります。当時の学校生活を碑文の裏に記すことによって、本校生徒はもとより関係者に末永く伝えたいと願っております。

碑文(表)

本校の前身、山形県立山形中学校の学級名はすべて徳目が冠されていた。第14代板垣政一校長が明治42(1909)年度に実施して以来、第二次世界大戦終戦の昭和20(1945)年まで続けられた。

「師長の教えを素直に受け入れ、性質温順にして正直であること」「知性と徳性の涵養を努め、勤勉であり悪に対しては毅然たること」「恭儉おのれを持し、他に対して謙虚敬服の念を持つこと」「他人には善を施し、信義を重んじ、進んで国家社会に尽くすこと」「仁を持って国家社会の進歩に寄与し父母に孝たるべきこと」等、教師の生徒に期待する徳目の漢字一字が当てられていた。

1年	順	良	正	直
2年	敏	勤	剛	毅
3年	恭	儉	敬	讓
4年	禮	信	智	勇
5年	忠	孝	仁	義

昭和20(1945)年戦局急を告げ、疎開者があり、生徒数が急増した。そのため、1年生は、一時的に「勤」「恪」が加わり6教室となった。また、この年度から5年生が繰り上げ卒業で居なくなるため学級名が消え、終戦後各学年共、1・2・3・4組といったナンバー制になった。

「こんな時代もあったのです」(裏)

(省略：記念碑をご覧ください。)

最後に、波乱怒濤の時代を駆け抜けてきた東高の歴史を継承し、平和な時代に勉学にいそしむことのできる幸せを噛み締めたものです。

(東一会 木村雅一 記)



編集後記

同窓会報66号が出来上がりましたので、お届けいたします。今年の冬は全国的に大雪に見舞われた地域が多かったようですが、皆様がお住まいの地域はいかがでしたでしょうか。この春も天晶会の232名を新たに同窓会に迎えることとなりました。卒業生の洋々たる前途と130周年に向け連綿と歴史を紡ぐ山東の発展を祈念しつつ筆をおきます。

佐藤英司(東駿会)・佐藤実希子(翔洋会)